

10月9日にコハクチョウの成鳥3羽が迫川で確認されました。
飛来日は平年並でしたが、昨年よりは3日遅い飛来となりました。

Vol.101

平成30年11月号

池の水を全部抜きました

池の水を抜く「池干し」が最近注目され、民放テレビ局のレギュラー番組にもなっています。池の中から見つかる魚たちやお宝が人気です。当財団でも毎年「池干し」を行っています。10月に伊豆沼近隣の2ヶ所の池を干したところ、外来魚がたくさん見つかりました。放置すると沼の生態系にも影響し、被害が出てしまいます。かわいそうですが駆除しました。外来魚を池に放流しなければ、被害は生じません。ブラックバス釣りの愛好家などによる、後を絶たない違法行為への監視が求められています。



池の魚の一部

この活動は、環境保全などに取り組む組織『ナマズのがっこう』と地元の水利組合と協力し、宮城県の支援を受けて実施しています。



池干しの作業

トヨタ自動車東日本が環境整備に貢献



木材の切断

観察路の草取り

10月14日に『トヨタ自動車東日本』の12名が、CSR（社会貢献）活動の一貫として、伊豆沼の環境整備に取り組みました。沼で進めている観察路整備のうち除草と木材加工を担当しました。好天に恵まれ、和やかな雰囲気で作業が進められました。このあと『豊田合成東日本』が観察路の整備に取り組む予定です。



— 日本鳥学会大会に参加してきました —

9月14～17日に新潟大学で開催された『日本鳥学会大会』に参加しました。500人ほどの参加があり、当財団の嶋田総括研究員から、GPS-TXという機器でGPS追跡を行った「GPS-TXによって明らかとなった越冬期のオオハクチョウ、カモ類の環境選択」について発表をしました。夜行性のカモ類が夜、どこで過ごしているのか、明らかになりました。

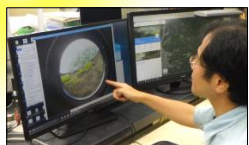
増加してきたトキの保全に関するシンポジウム →



— 世界初 スマートフォンを使った調査用水中カメラを学会でPR —

希少魚ゼニタナゴの観察

ブルーギルが鮮明に



室内で水中カメラを操作

スマートフォンで水中の魚を調査できるカメラを、北海道大学と財団とで共同開発しています。スマートフォンを使うことにより安価で簡便なシステムができました。スマートフォン内のカメラを使い、インターネットを通じて室内から自在に撮影できるのが特長です。おそらく、世界でも初めての試みです。10/7に国立オリンピック記念青少年総合センターで開かれた『日本魚類学会』で発表しました。会場は立ち見客が出るほど盛況でした。今後、希少魚の調査や保全活動への活用が期待できます。

— 伊豆沼・内沼研究報告12号まもなく発刊 —

10本の論文を掲載した伊豆沼・内沼研究報告12号をまもなく発刊します。お楽しみに!! j-stageに公開中です。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/izu/-char/ja/>



— 伊豆沼・内沼生き物図鑑 カネヒラ *Acheilognathus rhombeus* —

館内の水槽を泳ぐカネヒラの成魚



カネヒラは、流れの緩やかな河川や用水路、湖沼に生息するタナゴの仲間です。二枚貝に産卵する小魚で、手の平サイズ(約15cm)にまで成長する日本最大のタナゴです。秋にはオスの背側が青緑色、腹側が桃色に染まります(婚姻色といいます)。このように見栄えが良く、飼育も簡単のため、観賞魚や釣魚として人気のある魚です。本来の生息地は琵琶湖から西の地域ですが、琵琶湖産のアユの放流や、釣り人の放流などによって、分布が拡大しました。今では伊豆沼とその周辺にも生息しています。伊豆沼にはゼニタナゴというタナゴの仲間が元々生息していましたが、カネヒラはゼニタナゴと生態が似ており、ゼニタナゴより大きく、適応力が高いため、希少魚であるゼニタナゴを駆逐してしまうのではないかと懸念されています。無秩序な魚の放流は慎むべきでしょう。

